

# オックスフォード・ジャーナルにおける オープンアクセス出版

オックスフォード大学出版局（OUP）は、オープンアクセスを最初に試行した出版社の一つとして、この意見が大きく分かれる議論に貢献してきました。そして、OUP が保有・発行する最大のジャーナルである“Nucleic Acid Research (NAR)”をテストモデルとして、研究の浸透を促進させる可能性を持つ、この新しい出版モデルの調査を続けてきました。このプレゼンテーションは、OUP のここ数年間の試みの結果から、研究者のオープンアクセスに対する需要を見出し、オープンアクセスモデルが、購読モデルと共存できる方法を探り、その実行可能性について学問領域間の違いを理解しようとする試みです。



マーティン・リチャードソン  
(オックスフォード大学出版局学術書・ジャーナル部門マネージングディレクター)

マーティン・リチャードソン氏は、オックスフォード大学出版局で、20年以上にわたってさまざまな職務を担当。現在は、学術書・ジャーナル部門担当のマネージングディレクターとして、幅広い分野にわたる3,000点以上の印刷版およびオンライン版の出版を統括している。オックスフォード大学傘下の組織であるOUPは、最新技術とビジネスモデルを活用して、研究および教育資料の普及を拡大する新たな道を熱心に模索している。同氏の主導のもと、OUPは、1990年代初期にオンラインジャーナルの出版を開始した。数々のオンライン参考文献の第1号として、2000年には、オックスフォード・イングリッシュ・ディクショナリーのオンライン版を立ち上げた。2004年には、オックスフォード・スカラシップ・オンラインが開始され、OUPの大規模なモノグラフ・プログラム公開の基盤となった。ALPSP、PLoS、CrossRef クロスレフをはじめ、数多くの出版業界団体において、リチャードソン氏はOUPの代表を務めてきた。会議での発表も多く、オンライン出版のさまざまな側面に関する複数の論文も発表している。

## オープンアクセスとは？

オープンアクセスは、学術出版の世界では意見が大きく分かれるテーマです。意見は二極化し、議論が勃発することもしばしばです。オックスフォード大学出版局（OUP）は、オープンアクセスを最初に試行した出版社の一つとして、オープンアクセスにかかわる実験結果を学界で共有することで、この議論に貢献してきました。オープンアクセスに対するエビデンスに基づく取組に、私たちの研究が寄与することを願っています。

オックスフォード大学の出版局として、OUPは研究の伝播をより促進させる可能性を持つ出版モデルを探るという強い責務がありました。そして2004年に私たちは一連のオープンアクセス出版の試行に着手したのです。目的は、研究者のオープンアクセスに対する需要を検証し、購読モデルと共存しうるオープンアクセスのモデルを徐々に開発することでした。

出版を行うためには研究の正当性を確認し、そして伝播します。最も重要なのは、そのためにかかる費用を誰かが支払わなければならないということ、全ての利害関係者が理解することです。例えば、購読を有料化できない場合、オープンアクセスモデルに基づく共通のアプローチにより、著者側が支払う料金で出版費用をカバーすることになります。従って、ジャーナルのビジネスモデルは、支払いを読者側から著者側に移すこととなります。

このようなモデルはある一定の学問分野でのみ実行可能ですし、研究者が出版費用の財政的支援を受ける手段を持っているかどうかによって大きく左右されます。従って、学問分野間の違いを理解することが、私たちの研究のもう一つの目的です。私たちのオープンアクセスの試行は、「オックスフォードオープン」ブランドの下でグループ化され、大きく二つの種類に分けることがで

きました。

一つ目は、完全オープンアクセスモデルです。この場合、ジャーナル全体が出版と同時にオープンアクセス化されます。二つ目は、任意オープンアクセスモデルです。この場合は、著者が論文をオープンアクセスで直ちに公開するために料金を払うかどうかを決めることができます。任意オープンアクセスモデルは、完全オープンアクセスと購読モデルの複合型といえます。

完全オープンアクセスモデルでは、著者に料金を払ってもらって、ジャーナルをオープンアクセス出版するのに必要な収入を得る必要があります。Nucleic Acid Research (NAR) は、OUP が出版する最大のジャーナルです。そして、伝統的な購読モデルのジャーナルが完全オープンアクセスへ移行した、数少ない例の一つです。出版費用をまかなうために必要な資金のかなりの部分を、今では著者が支払っています。

2005 年以降、NAR の新しい論文はすべて、出版と同時にオンライン上で無料で閲覧することができます。NAR での試行は既に学界と共有していますので、今回のプレゼンテーションではこれ以上ご説明いたしません。

2005 年 7 月、幅広い学術分野の OUP 所有誌約 20 誌について、任意オープンアクセスモデルを開始しました。その後、私たちはこのプログラムを拡大し、各学会から出版された多くのジャーナルに任意オープンアクセスモデルを組み込んできました。現在、OUP のジャーナルのほぼ 3 分の 1 が、オックスフォード・オープンアクセス・イニシアチブに加わっています。

さらに、既にジャーナルのオンライン購読をしている機関に所属している著者には、任意オープンアクセスの料金を大幅に割引することを決めました。発展途上の著者には、さらなる割引を用意しています。現在のところ、任意オープンアクセスの料金は、オックスフォード・オープンアクセス・イニシアチブに加わっているほとんどのジャーナルが同じ料金です。しかし、将来的には変更の可能性があります。各ジャーナルの費用構造と、著者がどの程度オープンアクセスを取り入れるかを考慮した後、異なる料金を導入する必要性が生じるかもしれません。

### 任意オープンアクセスの導入

オックスフォードオープンオプションを提供してい

る 65 のジャーナルの中で、2007 年の全体の導入率は約 7% でした。これは、2006 年の水準とほぼ同じです (図 1)。ライフサイエンス分野での平均導入率は、予想通り他の分野よりも高いものでした。これは、オープンアクセスの動きに対する注目度がこの分野では他よりも高く、他の研究分野と比べて通常、資金も潤沢だからです。2007 年、医学と数学分野の導入率は 5%、社会科学と人文科学の導入率はわずか 2% でした。後者の分野では、オープンアクセス料金への資金供給を得られる道が限定されているようでした。

主題領域別・オックスフォードオープンオプションの導入状況(2007年)

学術分野	ジャーナル数	出版論文数	オープンアクセス論文数	オープンアクセス導入率 (%)
医学	30	5799	289	5
ライフサイエンス	19	3609	388	11
社会科学・人文科学	13	598	14	2
数学	3	614	29	5
合計	65	10620	720	7

SPARC Japan Open Access Update. OXFORD JOURNALS

(図 1)

2008 年前半には、オープンアクセスの方針を導入する資金供給機関の数が増加したにも関わらず、平均導入率に顕著な増加は見られませんでした (図 2)。導入率が平均より高かったのは、分子生物学と情報生物学のジャーナルの幾つかだけです。その一方、多くのジャーナルは平均以下の導入率でした。

オープンアクセスの導入状況と2008年のオンライン専用価格への影響

2006年オープンアクセス導入(ページの%)	ジャーナル数	オンライン価格の実勢の変動(2007→2008年) (%)	オープンアクセスによる実勢オンライン価格の低下 (%)*
0	26	+8%	0%
1-5	20	+3%	-2%
6-10	6	0%	-8%
11-12	2	-3%	-18%**

\* 当社通常価格モデルとの比較  
\*\* このジャーナル2誌は、2005年にオープンアクセスを導入したため、2007年にオンライン価格を-9%調整した。

SPARC Japan Open Access Update. OXFORD JOURNALS

(図 2)

私たちがオックスフォードオープンモデルを開始したときに顧客に約束したのは、オープンアクセスモデルで出版されるコンテンツの比率を考慮した後に、全参加ジャーナルについてオンライン購読料を調整することで

す。私たちの標準方針は、ジャーナルのオンライン版および冊子体の購読価格を、オンライン版プラス冊子体のコンバイン価格の95%に設定するというものです。オープンアクセスを導入したジャーナルの場合、前年に出版されたオープンアクセスのコンテンツの量に基づいて、オンライン版価格をさらに割り引きます。

2008年、オープンアクセスを導入した28のジャーナルのオンライン版価格の平均値上げ率は、わずか1.7%でした。これは、全タイトルの平均値上げ率6.9%よりはるかに低いものです。

購読価格は、ページ数の違いや為替レートの調整、前年のオープンアクセス導入率など、他の多くの要因によっても変動します。この調整は、必ずしも翌年の価格がいつも実際に値下げされるという結果を導くわけではありません。他の要因によって必要な値上げを抑えるだけという場合もあります。

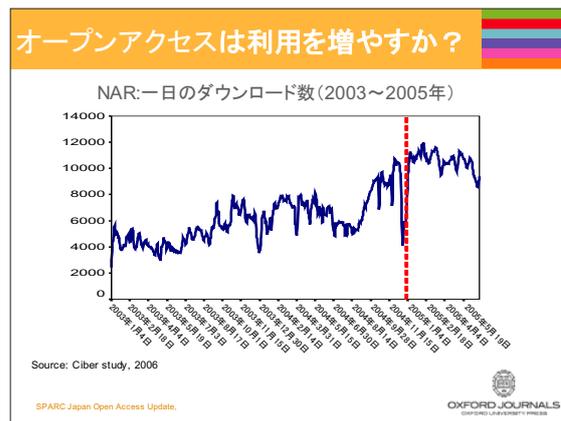
しかし、あらゆる要因を考慮に入れても、2007年から2008年にかけてオックスフォードオープンタイトルの、確かに値段が下がっています。2009年には5つのジャーナルの購読価格が下がるでしょう。こうした値下げが購読数にどのような影響を与えるのか、オープンアクセスの導入があっても、それを超えて購読減少が加速するかどうかという分析は、まだできていません。しかしながら、私たちはもちろん結果を見守り続けます。

### オープンアクセスがオンライン利用と引用に与える影響

オープンアクセスがオンライン利用に影響を与えるかどうかを確かめるために、私たちはCIBER（ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジの出版グループ）と協力して、NARと任意オックスフォードオープンジャーナルの利用傾向を調べてきました（図3）。

赤い点線は、NARが完全オープンアクセスジャーナルになった時点を表しています。CIBERは、全般的に見て、近年のオンライン利用の拡大は検索エンジンによるものが大きいという結論を出しています。しかし、完全オープンアクセスへの移行が、オンライン利用をさらに7~8%増加させたという見込みもしています。CIBERグループは現在、オックスフォードオープンジャーナルにおけるオープンアクセスと非オープンアクセスの論文について利用データを分析中です。

オープンアクセスによる出版が引用の増加という結果



(図3)

を導くかどうかについては、多くの論争があります。英国のラフバラー大学を拠点とする LISU が 2006 年に実施した分析の結果を見ても、オープンアクセス論文を出版している当社のジャーナル3誌における引用について、結論に達していません。フィル・デイビスの最近の報告では、アメリカ生理学会から発表された11のジャーナルで出版されたオープンアクセス論文を調査しましたが、出版初年のオープンアクセス論文について、引用に有利であったという証拠はなかったと結論付けられています。しかし、反対に、例えばオープンアクセスによる引用増加という影響があったというハーナッド氏の報告もあります。

上で述べた複合型の購読形態である任意オープンアクセスのモデルは、OUPでは過去3年間うまく機能しています。自分の論文をオープンアクセス化するために料金を払うかどうかを著者が決めことができ、購読者は非オープンアクセスの内容についてのみ購読料を払う選択をすることができます。

これまでの経験によると、私たちが出版するあらゆる学問領域について、一つのモデルだけでうまく機能するというのではなさそうだということが分かっています。従って、私たちは各ジャーナルのコミュニティの要件に応じて、さまざまなモデルが林立する将来を予測しています。

### さらに詳しい情報は

この短いプレゼンテーションでは、お話しした研究の抜粋のみしか提供することしかできません。さらに詳しくは、研究に関する出版物をお読みいただけますようお願いいたします (図 4)。

さらに詳しい情報

1. 「オープンアクセスにおけるオックスフォードジャーナルの冒険: 料金支払いを読者サイドから著者サイドへ」クレア・バード著・ラード・パブリッシング 21巻2号(2008年4月)
2. 「オープンアクセス出版の試行」マーティン・リチャードソン & クレア・サクスビー共著・ネイチャー2004年  
<http://www.nature.com/nature/focus/accessdebate/12.htm#b1>
3. 「オープンアクセスの影響を評価する—オックスフォードジャーナルの予備調査結果」2006年6月  
([http://www.oxfordjournals.org/news/oa\\_report.pdf](http://www.oxfordjournals.org/news/oa_report.pdf))

SPARC Japan Open Access Update.

OXFORD JOURNALS  
OXFORD UNIVERSITY PRESS

(図 4)